

和子牛の粗飼料摂取量増加のための技術

【研究成果】子牛を粗飼料多給で育成すると、濃厚飼料多給型に比べて育成終了時の体重は軽いものの、肥育後は筋間脂肪の少ない良質な枝肉が得られるため、子牛の粗飼料多給が推奨されています。しかし、濃厚飼料に比べ粗飼料を摂取させることは容易ではありません。そこで、子牛の粗飼料の嗜好性及び採食行動から、摂取量を増加させる方法を検討しました。

1 月齢に応じて複数種類の粗飼料を給与する

◎月齢に応じて子牛の粗飼料の嗜好性は変化します(図2)。

◎粗飼料は1種類よりも複数種類給与する方が摂取量が増加しました(図3)。



図1 カフェテリア方式による粗飼料給与風景

4種類の粗飼料を給与し、各粗飼料の摂取量を調査しました。

チモシー
オーツヘイ
粉碎ヘイキューブ
ペレニアルライグラスストロー

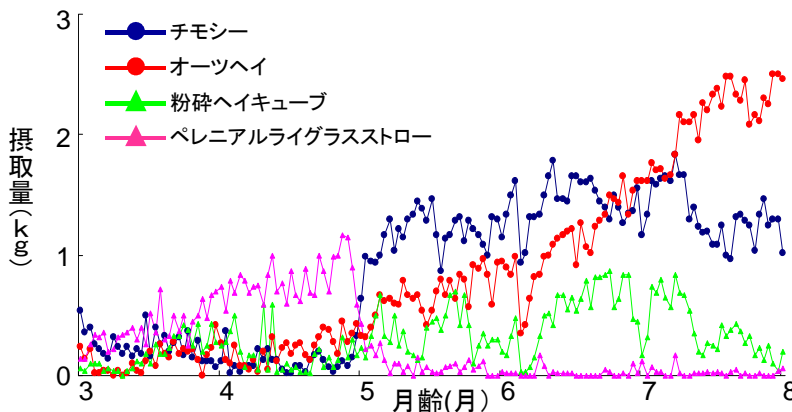


図2 月齢毎の各粗飼料摂取量の推移

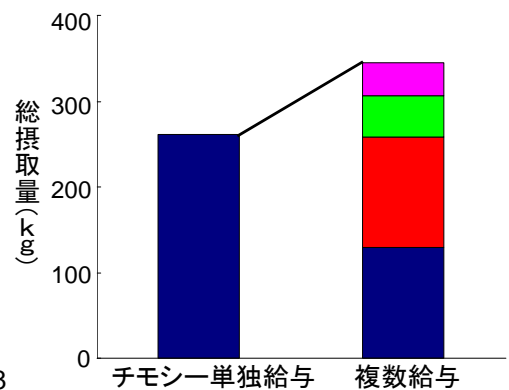
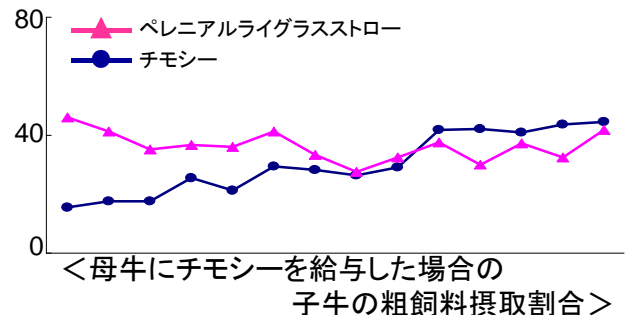
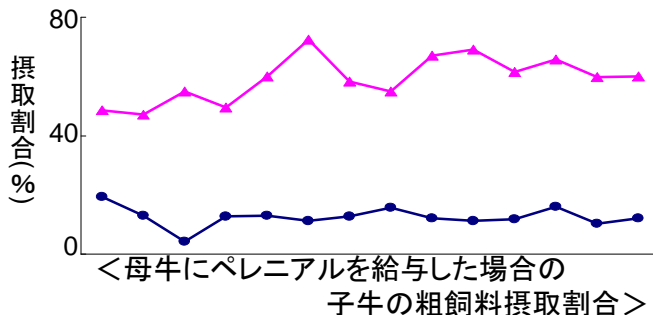


図3 粗飼料総摂取量

2 母牛と同じ粗飼料を中心に給与する

ほ乳期の子牛は、粗飼料の成分組成や粗剛性などよりも、母牛に給与している粗飼料の種類に、より強く影響を受けている可能性が考えられました。



【技術の活用】産地JA等と連携して、県内全域の子牛の育成指導に活用します。高栄養価の粗飼料の母牛への過度な給与は各種疾病の原因となる為、十分な栄養管理が必要です。